

ランドデザインに関する意見

委員	WG報告書における関連項目	意見
遠藤委員	3. 三番瀬再生のための時間軸に沿ったランドデザイン 他	<p>工学的な立場で考えると、まず現実にこだわらない理想的で定性的な好ましい漁場生産や潤いある人々の活動空間の場としての構想を描き、あるべき姿を構想の中から像を与え、次に地元特有の構想があれば、そのスクリーンに通し、実現の可能性のある定量的な内容としたうえで関係者の要望に添う計画を策定し、実現可能な時空間や環境再生面で定量的な分析に基づいた計画案であることが要求され、そのような計画に基づいた再生の予測値に基づいて目標年を設定した上で年次計画によって遂行されるべきと考えている。</p> <p>従って、目標年を最初に決めていることや時間的なデザインが空間デザインに優先されるのには違和感がある。又実現するための予測値無しに計画が進むことは、達成目標の評価を曖昧にする。</p> <p>従来の計画は見直しについて消極的であったが、環境重視や自然のメカニズムが人間の想像するものよりも遙かに多面的かつ複雑であることから見直しが重要であるとの認識から、予測の閾値からずれた場合には計画の見直しを考慮することが重要で、生態系や自然界の現象を対象とした計画目標年は計画・設計作業のフレームであって計画設計の目的を意味するものではないので、目標年は計画上あまり意味がない。</p> <p>そこで、空間デザインを最重要に策定することが重要で、それに沿って年次計画が進められればよく、従来行われているような5年計画であれば十分で、空間デザインをどのように実施するかは予測値などで評価できるであろう。</p> <p>円卓会議も再生会議もどこかで空間デザインを提案すべきであったが、全ての人の意見を尊重するのは結構であるが互角に評価するのではなく、重要な物差しと最優先の事項を決めるなど会議の目標を明確にするべきであると思う。</p>

委員	WG報告書における関連項目	意見
川瀬委員	<p>5. 三番瀬グランドデザイン実現に向けたロードマップ</p> <p>3) 周辺地域（行徳湿地、谷津干潟、流入河川）との関係</p>	<p>三番瀬に流入する河川水だけに限定せず、流入水という広い意味でのとらえ方を持たせてはどうか？</p> <p>流入水としては、河川水、工業排水、地下湧水、雨水、汚水処理水など。</p> <p>私たちの生活活動上密接な関係を持っているものが、三番瀬に流入し影響を与えているという事も大切な事である。</p> <p>広い意味でのとらえ方により、流域住民ひとりひとりに対しても三番瀬とのかかわりやつながりがある、という意味をもたせられるのではないだろうか？</p> <p>関係する行政や隣接する市民だけにとどまらず、三番瀬という千葉県之宝だった場所をどのように取り戻し、守っていくか、流域住民や千葉県民ひとりひとりの意識につなげていく方法を考える事も重要なのではないか。</p>